











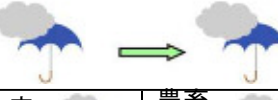

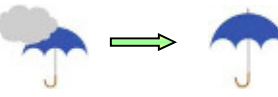










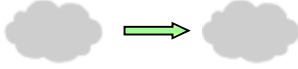




【産業動向概要】














































産業全体 	<p>12年11月を中心とした県内経済は、輸出に回復の兆しがかがえるものの、企業の生産活動は減少傾向が続いている。これを受けて雇用・所得環境も改善の動きが一服し、個人消費も横ばい圏内で推移している。県内経済は製造業を中心に弱めの動きが続いている。</p>		
観光・旅館業 			<p>秋季（9月～11月）を中心とする伊豆地区の宿泊客数は、全体として前年比若干の減少で推移したものとみられる。一方、年末年始の予約状況は曜日の配列がよく昨年よりも好調。</p>
紙類 			<p>県内メーカーが生産する再生紙物トイレットペーパーの価格は再び低下。安価な輸入製品が増加、製品市況は厳しさを増している。段ボール原紙も景気後退で需要は軟調、製品価格が引下げられるなど、市況が悪化しつつある。</p>
水産業 			<p>主要漁港全体の水揚量（8～10月）は前年比▲11.6%減。うち焼津港は、主要魚種であるカツオ類は増加したものの、マグロ類の減少が影響し全体では前年比▲2.7%減。一方、魚価は、カツオ類の単価が過去最高水準で推移し、全体の平均単価は前年比8.2%上昇。</p>
一般機械（主） 			<p>金属工作機械は3ヵ月連続してプラスと回復基調であるが、電気などが国内での投資意欲が弱いことから減速懸念も残る。金型も3ヵ月連続してプラスとなったものの、現地調達拡大や新興国メーカーの品質向上などで先行き不透明。</p>
木材 			<p>県内の新設住宅着工は住宅エコポイントの終了後の反動減などから減少。また、原木市場では供給過剰が解消されず、集成材も欧州産材へシフトする動きがみられ、製材品の県内生産量は減少傾向が続く。製材品価格も住宅の低価格化の影響などから弱含みで推移。</p>
缶詰 			<p>水産缶は主力のツナ缶の生産量が備蓄用の消費による補充買い等により、8ヵ月ぶりに増加。農畜産、飲料缶類の生産量も5四半期ぶりに増加に転じている。</p>
楽器 			<p>主力のピアノは、生産台数、販売台数ともに前年実績を下回った。輸出が低調なことから、横型の生産も不振であった。電子楽器類は、北米・欧州の販売不振、中国の伸長鈍化により減産体制をとった。各楽器ともに在庫過多の傾向にある。</p>
	家庭紙 	板紙 	
	金属工作機械 	金型 	
	水産缶詰 	農畜産缶 	
	飲料缶類 		
	ピアノ 	電子楽器類 	

輸 送 用 機 器			<p>遠州地域の二輪車生産台数は、震災特需の一巡や南欧を中心とした需要の低迷で、国内向け、輸出向けともに6ヵ月連続の前年割れ。一方、自動車部品生産金額（県内）もエコカー補助金の終了により、9月からマイナスに転じている。また円高の定着化で部品メーカーにも工場閉鎖の動きが出てきている。</p>
	二輪車 	自動車 部品 	

				
明　　る　　い	やや明るい	停　　滞	やや不振	不　　振

《産業別天気マークの推移》

 明るい
  やや明るい
  停滞
  やや不振
  不振

調査対象時期 (公表時期)	10/10 (10/12)	11/1 (11/3)	11/4 (11/7)	11/8 (11/10)	11/11 (12/1)	12/1 (12/4)	12/5 (12/7)	12/8 (12/10)	12/11 (13/1)		
概況 											
観光・旅館業 											
紙類 											
水産 											
一般機械(主要) 											
木材 											
缶詰 											
楽器 											
輸送用機器 